

消化器内科紹介

肝・胆・膵疾患と消化管疾患を専門とし、消化器病の診断と最新の治療法を総合的に習得できる科です。
病床数は40床を有し、年間約1400症例（消化管グループ800例、肝臓グループ600例）取り扱っています。

■医局員数（50名）

スタッフ（助教以上）14名、院内医局員 14名、院外医局員 22名

■年間検査件数

上部消化管内視鏡検査 年間 5000 例以上

内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術

下部消化管内視鏡検査 年間 3000 例以上

内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術

腹部超音波検査 年間 3500 例

肝生検、ラジオ波焼灼術、胸腹水穿刺、経皮的胆嚢ドレナージ

超音波内視鏡（EUS）診断 年間230例

EUSガイド下穿刺吸引細胞診・組織診： 年間70例

EUS 関連治療 年間20例

ERCP関連手技 年間340例

消化管ステント留置： 年間10例

■消化器内科のグループと診療内容

消化管グループ

消化器癌に対して内視鏡検査、超音波内視鏡検査およびX線検査などの精密検査で詳細な診断を行った後、治療法を検討し、内視鏡治療の適応と診断した早期食道癌、早期胃癌、大腸ポリープ、早期大腸癌などに対して内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行います。内視鏡治療の適応外病変は外科医と連携し治療法を検討し、外科手術を行います。その他、腸閉塞、胃十二指腸潰瘍、大腸憩室出血など一般的な消化器疾患に対しても多くの患者さんを受け入れ治療を行っています。

潰瘍性大腸炎やクローン病、他の腸疾患については患者さんを数多く診察しており、九州でも有数の炎症性腸疾患専門病院である。採血や内視鏡検査による診断や適切な薬物療法、分子標的治療、栄養療法、顆粒球除去療法、腸管狭窄に対する内視鏡的狭窄拡張術を行っている。また最新の治療研究も積極的に取り入れています。

早期食道癌	年間 20例	内視鏡的粘膜下層剥離術 内視鏡的粘膜切除術
早期胃癌	年間 100例	内視鏡的粘膜下層剥離術 内視鏡的粘膜切除術
大腸ポリープ・早期大腸癌	年間 400例	内視鏡的粘膜下層剥離術 内視鏡的粘膜切除術 ポリープ切除術
内視鏡的止血術	年間 100例	
クローン病・潰瘍性大腸炎	年間 70例	薬物療法 分子標的治療 栄養療法 顆粒球除去療法 腸管狭窄に対する内視鏡的狭窄拡張術

その他、カプセル内視鏡 やダブルバルーン内視鏡検査など、小腸病変の検査も多数行っています。

肝臓グループ

主に肝疾患の診断と治療を行い、ウイルス性慢性肝炎（B型肝炎、C型肝炎）に対する抗ウイルス療法の症例や、自己免疫性肝疾患も多く取り扱ってます。肝癌患者に対しては、当院外科や放射線科と合同カンファレンスを行い、密に連携を図りながら診療にあたっています。

また、肝硬変患者に合併した食道・胃静脈瘤に対する積極的な治療を行っています。劇症肝炎や重症急性膵炎に対しては、当院の救命救急センターと連携して治療を行っています。

肝癌	年間 80～100例 (累計2000例以上)	ラジオ波焼灼術 放射線科と協力して肝動脈化学塞栓術やリザーバー動注化学療法 放射線治療 分子標的治療
静脈瘤	年間 100～120例	内視鏡的静脈瘤治療 放射線科と協力してB-RTO
ウイルス肝炎		抗ウイルス治療

胆膵グループ

胆膵疾患を良悪性問わず担当しますので、膵癌・胆道癌の診断～化学療法、急性膵炎・胆管炎などの緊急疾患への対応、慢性膵炎・自己免疫性膵炎の管理など経験する症例・病態は多岐に渡ります。手術適応症例に関しては、消化器外科・病理学との合同カンファランスを介した緊密な連携のもと診療を行っています。特にERCP, EUS を応用した内視鏡診断・治療には力を入れており、従来から行われている結石治療や胆道ドレナージはもちろんのこと、近年トピックとなっているEUS関連治療手技も適応を慎重に判断しながら積極的に行っています。

膵癌:	年間50例	診断、化学療法、胆道ドレナージ、消化管ステント留置
胆道癌:	年間20例	

卒後研修システム・到達目標

3年目

到達目標

新内科専門医制度

3年目：内科専門医試験受験資格取得へ向けた必要症例(56疾患群、160症例以上)経験のため、原則当科6か月＋希望する各内科を2か月間隔でローテーションします。

- ・入院患者の主治医として単独で担当する（指導医がつく場合もある）
- ・消化器疾患の基本的な診断、治療法について習得する
- ・指導医のもと、消化器内視鏡検査、腹部超音波検査、透視検査などの検査手技を習得する

到達目標

- ①臨床での消化器疾患に対する診断能力をつける
- ②消化器内視鏡検査・腹部超音波検査・透視検査などの基礎トレーニング

4年目

到達目標

院内・院外研修（1～2年間）

関連病院で半年～2年間の院外修練、不足症例の最終集積と共に、消化器内科医として必要な専門的技能を身につけていく。

- ・消化器病に対する専門的な治療技術を習得する
- ・関連病院でのプライマリケアと消化器診断学のトレーニング
- ・救急救命センターでの救急処置を習得する

到達目標

- ①消化器病の診断学の向上
- ②学会での症例報告

5年目以降

到達目標

希望研究室配属予定（消化管研究室・肝臓研究室）

- ・若手医師の指導、育成
- ・大学院（4年間）にて勉強・研究も可能

到達目標

- ①専門医として十分な経験、知識、判断能力を身につける
- ②内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医の取得
- ③臨床研究の発表、国内留学

取得できる専門医

日本内科学会	専門医
日本消化器病学会	専門医
日本肝臓学会	専門医
日本消化器内視鏡学会	専門医
日本消化管学会	認定医/専門医
日本超音波医学会	専門医
日本膵臓学会	指導医
日本胆道学会	指導医

その他、門脈圧亢症学会、超音波学会、ピロリ学科、カプセル内視鏡学会など、ほとんどの医局員が複数の学会専門医を有しています。

関連病院

福岡大学西新病院・福岡赤十字病院・白十字病院
糸島医師会病院・戸畑共立病院・社会保険直方病院・済生会大牟田病院
長野市民病院・松山赤十字病院・亀田総合病院・よしみず病院・中頭病院
佐賀大学医学部附属病院・北部地区医師会病院

希望により海外・国内留学も可能

（実績：米国Yale大学、米国Mayo Clinic、虎の門病院、松山赤十字病院など）

チーム医療

管グループ 4チーム

肝グループ 4チーム

胆膵グループ 2チーム

■1ヶ月の入院患者100例以上（うち緊急入院約40例）あり、月15～20人程度の新入院、常時5～10人程度の治療にあたっています。

■看護師さんや薬剤師さんをはじめ、様々なスタッフと密に連絡を取りながら診療しています。

■大学病院としての専門性も高く、市中病院として地域連携も活発にしており、幅広い医療に臨めます

- ◆チーム制なのでバックアップがしっかりしており、安心して研修できます。
- ◆チーム内で調整できるので、自分の希望するスタイルに応じた研修が可能です。

募集要項

■資格
卒後初期研修を修了または見込みの者

■人数
若干名、随時受付（面接あり）

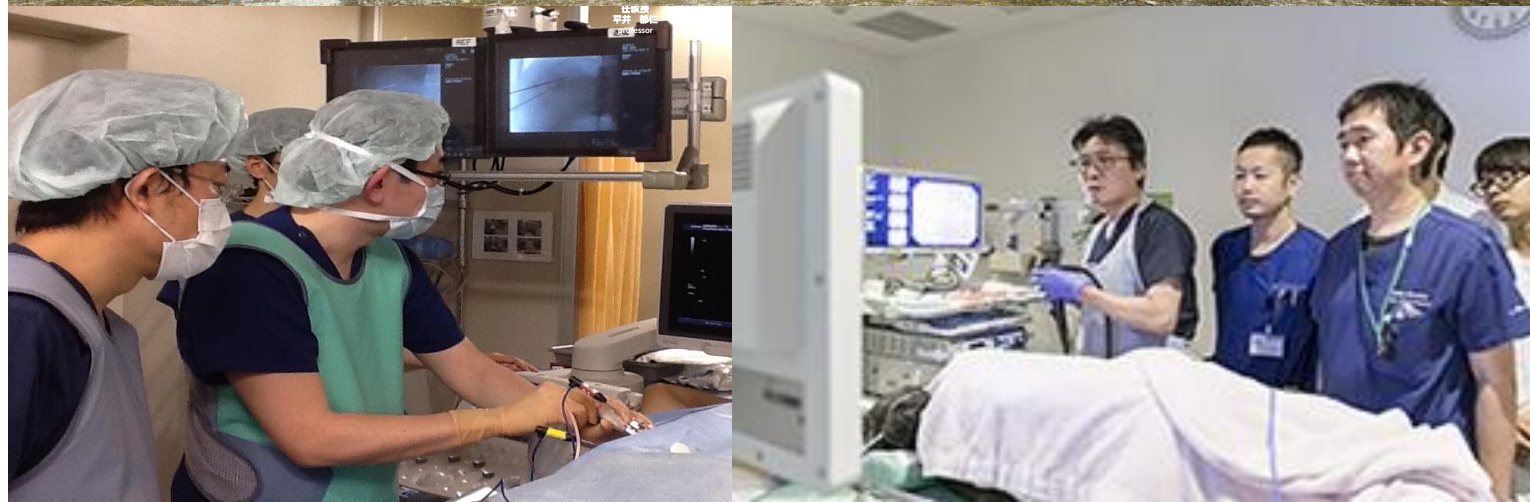
■給与
大学病院規定に準ずる
（その他院外研修にて月約50万円～）

ホームページのご案内

福岡大学消化器内科 検索

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/interna3/>

*HPからもお問い合わせや見学の申し込みを受け付けております。
お気軽にお問い合わせください。



福岡大学病院 消化器内科
Department of Gastroenterology and Medicine

研修プログラム



T R A I N I N G P R O G R A M



消化器内科 診療部長
消化器内科学講座 主任教授
平井 陽仁
professor Fumihito Hirai

私たち福岡大学消化器内科は消化管疾患と肝胆膵疾患を専門とし、最高レベルの医療が行える医師を育成するとともに、内科全般の診断能力に富んだ医師の育成を目指しています。九州近県からの来院も多く、当科外科、救命救急センター、地域の病院と密に連絡を取りながら診療を行います。
最新の設備で皆様の知識と技術、そして精神力を高めませんか。皆様の溢れる力を是非当科に注いでいただき、一緒に楽しく働きましょう。
見学は随時行っていますので、お気軽にご連絡ください。

■問合せ先（見学/面接/応募）

福岡大学病院 消化器内科（福岡大学医学部 消化器内科学講座）
医局長：船越 慎広 副医局長：田中 景

住所：〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈7-45-1
TEL:092-801-1111（内線3354～3356）
FAX:092-874-2663
E-mail: fukudaisyokaki@gmail.com